

2023年7-9月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和5年11月15日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2023年7-9月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.5%（年率2.1%）と3四半期ぶりのマイナス成長となった。名目は0.0%（年率0.2%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.4%と2四半期連続のマイナス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は0.1%と2四半期ぶりのマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.0%と2四半期連続の減少となった。外食等が増加に寄与した一方で、自動車等が減少に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質0.1%と5四半期ぶりの減少となった。

民間企業設備については、実質0.6%と2四半期連続の減少となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、半導体製造装置等への支出が減少したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.3%となった。実質の在庫残高が2023年4-6月期から7-9月期にかけて増加幅を縮小したことから（2023年4-6月期2.0兆円、7-9月期0.5兆円）、その変化分（1.5兆円）がGDP成長率に対してマイナスに寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.3%増と 4 四半期連続の増加となった。医療費等が増加に寄与したとみられる。

公的固定資本形成については、実質 0.5%と 6 四半期ぶりの減少となった。

公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0%となった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 0.5%増と 2 四半期連続の増加となった。自動車等が増加に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 1.0%増と 3 四半期ぶりの増加となった。著作権等使用料等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 0.5%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.3%となった。外需デフレーターはプラスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、5.1%となった。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2023年7-9月期の実質GNI成長率は、季節調整済前期比で0.5%（年率2.2%）と4四半期ぶりのマイナスとなった³。海外からの実質純所得（寄与度0.2%）がマイナス寄与となった一方で、交易利得（寄与度0.2%）がプラス寄与となった。名目GNI成長率については、季節調整済前期比で0.2%（年率0.7%）と4四半期ぶりのマイナスとなった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2023年7-9月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で1.7%増、季節調整済前期比で0.0%となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数とともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で2.0%、季節調整済前期比で0.6%となった⁵。

（以上）

³ 実質GNI = 実質GDP + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目GNI = 名目GDP + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出（除く持ち家の帰属家賃及びFISIM）デフレーターで除して算出した参考値。